

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●WASJは横山典弘騎手とJRA選抜が優勝

8月22日(土)と翌23日(日)、札幌競馬場で2026ワールドオールスタージョッキーズ(WASJ)が開催されました。個人戦では9着、1着、14着、1着の成績で計63点を獲得した横山典弘騎手(美浦・フリー)が優勝。チーム対抗戦は261点のJRA選抜が187点のWASJ選抜(外国騎手・地方競馬所属騎手チーム)を抑えて優勝しました。

●S.ナレドゥ騎手とR.ヘルナンデス騎手がJRA初勝利をあげる

8月22日(土)の2回札幌1日・第6レースではフィエールシャンテが1着となり、同馬に騎乗したスラジ・ナレドゥ騎手(インド)は、JRA初勝利(2戦目)をあげました。また翌23日(日)の2回札幌2日・第3レースではファイアリービートが1着となり、同馬に騎乗したラファエル・ヘルナンデス騎手(カナダ)もJRA初勝利(7戦目)をあげました。

●横山典弘騎手がJRA通算2万2000回騎乗を達成

8月23日(日)の2回札幌2日・第6レースでルクスアドラーに騎乗した横山典弘騎手(美浦・フリー)は、史上5人目・現役4人目となるJRA通算2万2000回騎乗を達成しました。

●坂井瑠星騎手がJRA通算700勝を達成

8月23日(日)の3回新潟2日・第12レースではクリムゾンリーフが1着となり、同馬に騎乗した坂井瑠星騎手(栗東・矢作芳人厩舎)は、史上71人目・現役27人目となるJRA通算700勝(6189戦目)を達成しました。

●古賀大生調教師がJRA初勝利をあげる

8月23日(日)の3回新潟2日・第5レースではフジサンが1着となり、同馬を管理する古賀大生調教師(美浦)は、JRA初勝利(延べ17頭目)をあげました。

●橋木太希騎手が引退

橋木太希騎手(栗東・フリー)からの申請により、8月26日(水)付で騎手免許を取り消しました。JRA通算成績は323戦5勝でした。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●ブリーダーズゴールドC(門別)は重賞初挑戦のレイバックスピン

ブリーダーズゴールドC(JpnⅢ、8月27日、門別、2,000^円)は、2番手から直線に入って間もなく先頭に立った4番人気のレイバックスピン(丹内祐次騎手、牝4歳、父リアルスティール)が重賞初制覇。2番人気のクインズジョコラが2着、エルフストラックが3着、逃げた3番人気のバスタードサフランが4着、1番人気のペンダントが5着と、5頭出走したJRA勢が上位を独占しました。

●9月1日の不来方賞はリアライズグリント対ロックターミガン

不来方賞(JpnⅡ、3歳、9月1日、盛岡、2,000^円)は、春の二冠で上位を賑わせた雲取賞馬リアライズグリントと京浜盃の覇者ロックターミガンが双璧、新興勢力のイッテラッシュイ、メイショウマチが続き、シーズザスローン、レジェンドパローズ(岩手)、フォースメン(岩手)までが争覇圏内と考えられます。

●マテンロウコマンドらが参戦、9月3日のサマーチャンピオン

サマーチャンピオン(JpnⅢ、9月3日、佐賀、1,400^円)は、トップハンデの59.5^{kg}もマテンロウコマンドが中心、連覇を狙うヤマニンチェルキ(59^{kg})、インユアパレス(58.5^{kg})も差はなく、以下ストレンジス(57^{kg})、ハッピーマン(58.5^{kg})の順に有力視されます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1インターナショナルS～アイテムが優勝

現地8月19日にイギリスのヨーク競馬場で行われたG1インターナショナルS(3歳以上、芝2,050^m)は、C.キーン騎手が手綱を取ったアイテム(牡3歳、父フランケル、A.ボールディング厩舎)がG1タタソールズゴールドC優勝のアルマカムをゴール前で差し切って優勝しました。勝ったアイテムは今年5月のG2ダンテSで重賞初制覇。その後G1英ダービーは9着でしたが、続く前走のG2ヨークSを制してここに臨んでいました。

●G1シティオブヨークS～ノータブルスピーチが制す

8月22日にヨーク競馬場で行われたG1シティオブヨークS(3歳以上、芝1,400^m)は一昨年の英2000ギニーの勝ち馬ノータブルスピーチ(牡5歳、父ドバウイ、C.アップルビー厩舎)がW.ビュイック騎手を背に鋭い末脚を披露して2馬身3/4差で快勝しました。これで4戦続けての海外での出走となったサトノレーヴは9着でした。勝ったノータブルスピーチはこれが6度目のG1制覇です。

●G1パシフィッククラシックS～ナイツブリッジが快勝

8月22日にアメリカ・カリフォルニア州のデルマー競馬場で行われたG1パシフィッククラシックS(3歳以上、ダート2,000^m)はJ.アルバード騎手が騎乗したナイツブリッジ(牡5歳、父ナイキスト、W.モット厩舎)が2頭による逃げ、先行争いを制すると、直線で後続を突き放して6馬身1/4差で快勝しました。日本から参戦したフィンガーは最下位11着。勝ったナイツブリッジは10馬身1/4差で制した前走7月のG3モンマスカップS(ダート1,800^m)に続く重賞連勝でG1初制覇です。